

会報

★ 広島県高P連

発行所

広島市中区八丁堀11番28号
朝日広告ビル4F
広島県高等学校
PTA連合会
電話(082)223-3347
FAX(082)223-3351
HP www14.ocn.ne.jp/~hkoupren/

NO. 151

平成二十六年年度広島県高等学校PTA連合会進学説明会

とき 平成二十六年七月二十六日(土) ところ 広島県民文化センター

昨年度に引き続き、広島県高等学校PTA連合会進路対策委員会では、「県内五国公立大学進学説明会」を開催しました。

昨年度は南区の広島県健康福祉センターで開催し、三百二十名の御参加をいただきましたが、場所が分かりにくいとの御意見もあり、今年度は市内中心部の広島県民文化センターで開催いたしました。



その結果、申込数で五百五十八名、実際にお越しいただいた数で四百五十名と、非常に多くの会員の皆様の御参加をいただきました。

事務局としては、事前の申込数で会場定員を越えた段階で、先着順とさせていただきますましたことについて、この場を借りてお詫び申し上げます。

さて、当日の様子ですが、配布資料の準備等の事前準備を含め、昨年度の反省を生かして、非常にスムーズな運営となりました。

冒頭の中津久美子会長挨拶に続いて、昨年度も御講話いただき「子供に直接聞かせたい」「もっと長い時間お話を聞きたい」と好評を博した、河合塾広島校校長毛利美佳様に御登壇いただきました。



まず、複雑化している昨今の大学入試の現状を説明していただいた後、受験に

臨む子を持つ保護者の心得として、

「志望校を確定・敵を知る・計画を立て、実行する。子供を信じ、保護者として受験について関心を持ち、過干渉にならないように注意しながら、子供とたくさん話をする」というお話をいただきました。



続いて、福山市立大学、尾道市立大学、県立広島大学、広島市立大学、広島大学の順で、各大学の説明を行っていただきました。

各大学が、それぞれ特徴ある大学運営を行っていらっしゃることを知ることができましたが、共通している点もありました。

それは、各大学共に、地域との連携を重視していらつしやること、学生の生活面・メンタル面のケアや、卒業後の進路（就職）にも力を注いでいらつしやることなどでした。

少子高齢化時代の到来で、各大学も学生獲得のために、経営戦略を見直し、サービス向上に取り組み時代になってきたのだなあ、と感心いたしました。

御参加された会員の皆様は、四時間弱にわたる長丁場にもかかわらず、熱心にメモを取っておられ、我が子の進学・進路に深い関心を持っていらつしやる御様子を拝見し、改めてこの説明会の意義を認識いたしました。

来年度も引き続き、当説明会を開催すべく、進路対策委員会では議論を重ねております。

「進学」だけではなく、その先にある「進路（就職）」についての学びの場の提供、開催時期の問題、会場のキャパシティの問題、広島市内だけではなく複数地域での開催の可能性などについて、検討を進めております。

進路対策委員会としては、子供たちが希望する進路に進むことができ、素晴らしい人生を送ることができるよう、保護者としてどのようなサポートができるのかという視点を大切にしながら、今後の取り組みを進めて参る所存です。

最後になりましたが、多くの会員の皆様の説明会への御参加、誠にありがとうございます。

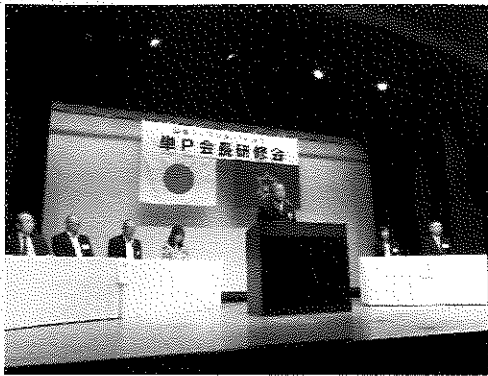
（進路対策委員長 百々隆雄）

平成二十六年 第一回単P会長研修会

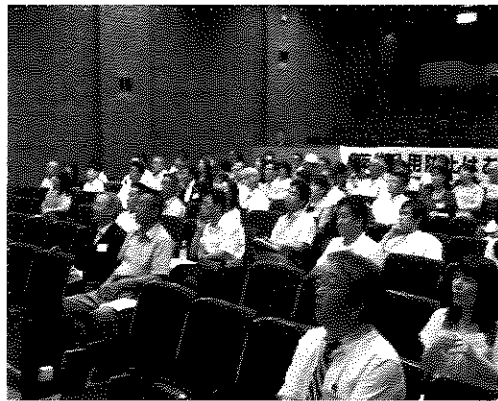
とき 平成二十六年八月二日
ところ 広島YMCA国際文化センター 国際文化ホールほか

平成二十六年八月二日（土）、広島YMCA国際文化センター国際文化ホールにおいて、平成二十六年第一回単P会長研修会が、百名近くの広島県内各校のPTA会長が参加して行われました。

開会行事では、前年度より引き続き県高P連会長を務められる中津久美子会長の挨拶からはじまり、本日出席いただいた御来賓の方々へのお礼を述べられたのち、本日の研修会の主旨についてのお話がありました。



次に、御来賓として、広島県教育委員会事務局教育部生涯学習課課長の十時明子様と、広島県公立高等学校長協会副会長の奥田浩久様より御挨拶をいただきました。



十時明子様のお話で、広島県が掲げる目標「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の創造」、「グローバル化十年構想」のお話がありました。また、現在の日本は、他国に比べ自己

肯定感を持つ高校生の割合が非常に少ないという話もあり、これを改善するには、
①実体験（成功体験）を持つ
②良い手本に触れる
③励まし（褒める）
④ムード（雰囲気）作り
を挙げられました。

その後、研修行事に入り、中津会長より県高P連の組織等の説明があり、アルフレツサファーム株式会社経営企画部長の上内まゆみ様より「企業の採用担当を経験して「自発力の高い人材」という演題で講話をしていただきました。

最後に、八つの分散会に分かれ、特にテーマは決めずに自由討議の形で、意見交換を行いました。

【県高P連組織の説明】

中津会長より、広島県高等学校PTA連合会の組織について、組織図を参照しながら説明がありました。

また、各人色々な事情があると思いますが、各単Pの会長を引き受けたからには、責任を持って県高P連の活動に参加

していただきたいというお話がありました。



【講話】

「企業の採用担当を経験して〜自発力の高い人材〜」

今回、講話をしていただく上内まゆみ様の勤務されているアルフレツサファーマ株式会社は、医薬品・医療機器の開発・製造・販売に取り組む医療メーカーで、本社は大阪にあり、特に希少疾患の治療薬の開発に力を入れているとのこと。上内様は、秘書として十年、人事部で四年の経験を経て現在経営企画部長をされていらつしやる方で、人事部で人事担当をされた経験から、企業がどういう人材を求めているのか、企業の採用活動と学生の就職活動の現状を基に、就職を希

望する学生にとって何が重要かをお話しいただきました。

① 就職活動の現状

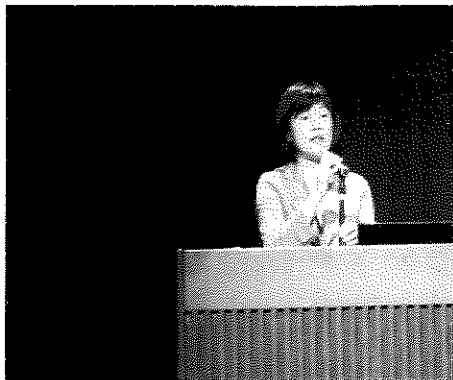
平成二十五年度の厚生労働省の調査より、民間企業からの求人倍率一・二八倍、高専・大学生の就職率九十五％程度。

② 就職活動における問題点

最近の統計資料より、内定辞退率が二十％〜三十％となっている。これは特定の人物に内定が集中しているため、企業の採用が量より質へ転換しているため。

また、新卒三年以内の離職率が高く、大卒者で四十％近い数字になっている。企業の採用活動における方針

採用活動の目的を明確にする。効果的で効率的な採用活動を行う。



- 1. 採用基準を明確にする
- 2. 採用活動を通じて、会社のファンを創る
- 3. 採用活動を通して学生を育てる
- 4. 採用活動を社員教育の場とする

④ 就職を希望する学生にとって大切なこと

- 1. 就職？就社？何をしたいのかを決めることが重要
- 2. 入社への熱意（意欲）が重要
- 3. 就活中に成長できるか
学生 ↓ 社会人

決まっていない学生があまりに多い。自分のアピールポイント、企業選択の理由、職種選択の理由、入社後やりたいこと等が曖昧である。

- 1. 自分を知ることを知る：自己分析をする。
- 他人に分析をお願いする。
- 就活を通して成長する。

- 2. 企業を知る：どんな業種か、どんな社風か、どの程度の規模か、勤務地はどこか、働いてみたいと思えるか、よく調べる。

- 3. 企業が求める人材像を理解する：就職活動を通してその企業の求める人材像を理解する。

面接時の注意点

コミュニケーションの四つの関所として、導入部において「第一印象」、「態度」、「話し方」があり、質疑応答における「話

す内容」がある。

- 1. 「第一印象」や「態度」で見る観点
正しい服装、身繕い、自然な動作、清潔さ、活気・意欲、正しい座り方、飾らない態度、堅実な態度、前向きな態度、はっきりした態度、外向的な態度等。

- 2. 「話し方」で見る観点
表情は自然な笑顔で、美しい姿勢で（背筋を正す）、視線は自然に相手の目を見て、正しい言葉遣いで話す。

⑤ 面接官としての見極めポイント

- 1. 資質の見極め（能力）
- 第一印象（基本マナー、活力、志望度や熱意）
- 基本的なコミュニケーション能力（端的に伝える、傾聴力、理解力）
- 経験からの学び、学習能力
- 仕事に必要な能力（語学・専門性・読み書き）
- 2. 意欲の見極め（志望動機）
- 仕事・会社・業界の理解度、研究度
- 志望動機、将来なりたい姿、どのように貢献するか
- 経験、経歴、転職への対処や意思決定について

※意欲は、自分の率直な感情を通してのみ伝わる

- 3. 適応性（人となり）
- 信頼・堅実・正直／積極的・行動的
- ／創造的・柔軟／活力・粘り強さ
- 基本条件（健康状態・視力・身長・

通勤条件・自動車免許等)

○常識業界特性、企業理念・風土に

よって大きく異なる

⑥ 面接における心構え

1. 個性は大切にしながら、基本は抑えておく

2. 清潔感と明るさがキー

3. 入りたい企業を絞る、企業研究をしつかりやる

4. 面接は、入る前と出てからも面接

5. 嘘をつかず、わかりやすく、心をこめて伝える

6. 質問内容の主旨を理解して答える

企業の採用活動の現状と、就職活動における学生の心構え、注意事項についてお話をいただいたわけですが、その内容は子供たちが社会に出て行く上で身につけておく必要がある事と重なります。

そして、重要とされる事項の多くは学校だけではなく、家庭を中心とした日常生活から学んでいく事と思われ、家庭環境を考える良い機会となりました。

この後、八つの分散会に分かれて、テーマを特に決めず、各単Pの抱えている問題等や疑問に思っていること等について話し合いました。

これまで思いもなかった視点や考え方もきくことができ、とても有意義な分散会となりました。

(調査広報委員 吉本和弘)

～PTA功労表彰の御紹介～

第64回全国高等学校PTA連合会大会福井大会で次の皆さんが御受賞されました。

平成26年度優良PTA文部科学大臣表彰 広島県立西条農業高等学校PTA

第64回全国大会会長表彰 個人

新庄 健 (広島県高等学校PTA連合会前副会長 広島県立安芸府中高等学校元PTA会長)

池庄司一郎 (広島県立広高等学校前PTA会長 呉地区高等学校PTA連合会前会長)

寺垣内栄作 (広島県立熊野高等学校前PTA会長)

第64回全国大会会長表彰 団体 広島県立竹原高等学校PTA

御受賞おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

第64回 全国高等学校PTA連合会大会 福井大会

第六十四回全国

高等学校PTA連

合大会福井大会が

平成二十六年八月

二十二日(金)～

二十三日(土)の

二日間の日程で、

サンドーム福井を

主会場として、外

四会場で開催され

広島県から二百十

六名が参加し、全

国からは、約一万

人のPTA会員が

集いました。

福井大会のメイ

ンテームは『教育

と考福』、サブテ

ーム『未来に引き

継ぐ知と恵み』と

し「教育」と「考

福」を講演や分科

会が行われました。

大会の冒頭、一

昨日(平成二十六

年八月二十日)の

広島市の大規模土

砂災害にて多数の

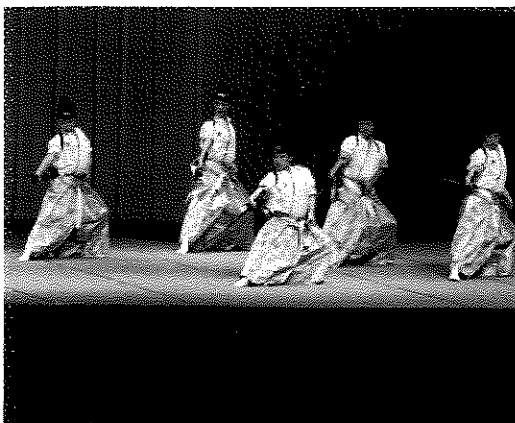
行方不明者が出て

いる事と甚大な被害が出ています事を伝え、会場の全員が行方不明者の早

期発見を願うことから始まりました。



次に歓迎のアトラクションとして福井県吟剣詩舞道総連盟による華麗な演舞で幕開けとなりました。



開会式、表彰式が行われ来賓祝辞では第六十三回大会で講演された下村文部大臣が「自己否定感ゼロを目指す」「プラスの活用」「人づくりは国づくり」「教育委員会制度の抜本的な見直し」「大学の入学試験を変える」などの提言を軸に祝辞を述べられました。

続いて、基調講演に入る前に、教育評論家の「尾木ママ」から今回の福井大会の講演を引き受けながら体調不良により辞退したこと、そして脳科学者茂木健一郎先生を代役として推薦したこと、そして福井大会の成功を祈念してのVTRを流されたのち、本日、基調講演される脳科学者、茂木健一郎氏が登壇されました。まず自分の体形から「腹の上のポニョ」と言われ、会場全体を爆笑の渦に巻き込みました。

講演テーマは、「今もとめられる考福脳」脳科学者からの提案」幸福とは、脳科学では説明されている。「幸福になるためには自分を受け入れる」必要がある。ということ、欠点のすぐそばに長所がある。例えばトムクルーズは失読症で、ある文字が読みにくいのですが、台本を読んでもらって全部覚えるようにしている。このことにより人の話を聞く能力が人一倍高いそうです。

また、リチャードブランソン（イギリス）は小さいころから勉強が出来なかったが、適材適所に人を差し向けることができ、人間関係を円滑に考える能力がずば抜けて高く今ではイギリス一大富豪と

なった。これは正しく短所のそばに長所がある典型ではないでしょうか。

「人間の脳には個性がある」
「日本人は自己肯定感が低い」
「一人でやるのではなくチームでやる」
「人間の脳は一生学び続ける（Open End）挑戦すること」

ドーパミンを出すチャレンジが出来るか、出来ない事へのチャレンジが必要です。つまり、自分がやれない事が出来たらドーパミンが出て、幸福を感じるのです。

といろいろな事例を挙げておもしろおかしく、時には引き込まれあっという間の一時間でした。

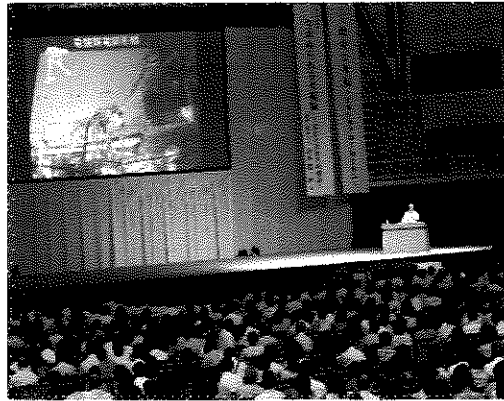
昼のアトラクションは「地域密着型ほんわかミュージシャン」の女性二人のライブコンサートを楽しみました。

大会二日目



福井県立武生商業高等学校吹奏楽部が「コンサートバンド」、歌や踊りを交え、会場の皆様も巻き込んでの楽しいパフォーマンスを繰り広げる「ファンキーバンド」を楽しみました。

続いて、福井県立福井商業高等学校チアリーダー部JETSの華麗な演技に会場の皆が、引き込まれ見入ってしまいました。



記念講演として「福井の恐竜くアジア、そして世界へ」と題して広島県生まれ、福井県立大学恐竜学研究所教授・福井県立恐竜博物館特別館長東洋一氏による福井県の恐竜を調べることによって、アジアからヨーロッパ地域の恐竜たちの動きなど貴重なお話をいただきました。

（調査広報委員長 三宅 聡）

第二分科会の報告

第二分科会は、大会開催当日の午後、メイン会場のサンドーム福井から、車で十五分程度の越前市文化センターで開催されました。

会場に着くと、福井県立武生東高等学校の生徒によるウェルカムドリンクのおもてなしを受けました。

又、アトラクションとして、同校の吹奏楽部による「ファンキーバンド」のコンサートがあり、会場全体が歌と踊りで一体となったパフォーマンスを披露して頂き、とても楽しいオーブニングとなりました。



第二分科会は、「進路指導とPTA」立志と目標追及への啓発」をテーマに、

埼玉、新潟、愛知、沖縄の高等学校の代表者の方々により、学校の特徴に沿ったPTAの取組みが発表されました。

埼玉県立越谷北高等学校PTA後援会長並木利美子氏は、PTA行事への保護者の参加が減っている現状を、共働きのよる家庭事情、学校への関心の薄れ、進路の選択について先生任せ等と分析し、PTA活動の活性化として、

一 PTA、後援会総会前に進路講演会を開催する。

二 地区別懇談会をリニューアルし、学年PTA懇談会にする。

三 活動をより具体化するために、理事体制を執行部会として新設する。

以上の改革により、保護者の学校に対する理解が深まり、積極的に学校に関わる姿勢が出て、質の高い進路指導に結びついたとの事例が発表されました。

新潟県立明鏡高等学校PTA会長小林泰氏は、同校は、単位制による午前部、午後部の二部制の定時制で、入学者の二割が過年度卒業、中途退学経験者、又五割が長期欠席経験者であり、約三割の生徒が、心身及び健康面での配慮を必要としている現状をふまえ、新潟市と連携して「にいがた若者自立支援ネット」を立ち上げ、月一回の校内フリー相談室を開

設し、生徒、保護者、教職員との面談を実施。又、PTAとしては、保護者同士のつながりを広げる場として「トトロの会」と称する茶話会の開催。保護者と教職員の合同の研修として、若者支援機関

の見学会を実施して、保護者と学校が協力、連携して生徒を支援していく取組みが発表されました。

愛知県立東海商業高等学校PTA会長早川圭三氏は、同校の卒業する約六割の生徒が就職する現状に、インターンシップ制の充実を図り、保護者が、先生方と共に研修先の訪問を実施して、地元企業を知る取組みの実施。又、面接指導で実際にPTAが面接を実施して進路指導の手助けを行っている取組みが発表されました。

沖縄県立那覇国際高等学校PTA進路対策部部長島袋十史樹氏は、同校の生徒九割が四年制の大学に進学している現状を踏まえ、「親子で見つける幸せな進路」を副題として、独自のユニークな取組みの発表がありました。

PTA主催のワークショップを開催し、その中で、「やりたいこと見つけまシート」を活用して、今自分に必要な努力を考えさせることでした。

内容は、将来自分がやりたい職業、やりたい職業をリストアップして、なぜやりたいか考えさせると共に、そのためには何が必要なのかを掘り下げて、進路を考えさせる自己啓発的な取組みでした。子どもが自分の力で考え、行き先を決めてルールを作っていくための環境整備をする存在でありたい。また、親は子どもが一番のサポーターであるべきとも、言っておられました。

以上四校の事例発表の後に、助言者と

して福井県経営者協会専務理事の峠岡伸行氏から、「進路対策に対する考え方は、各校で違う。同様に学校の事情によって取り組みも変わってくる。最近の大学生は真面目だが、コミュニケーションが苦手である。インターンシップは単に就業体験ではなくコミュニケーションの訓練の場でもある。社会人として求められる能力、つまり知恵は、知識と経験の積み重ねである。知恵は学校で習得できるが経験を積ませるのは親の役割であり、親がよいと思う経験をさせることが重要である。

PTAは良かった体験の情報交換の場

として頂きたい。また、親として自分自身で選択できるようにサポートすることが大切である。」と総括されました。終わりに、私としては初めての高P連の全国大会の参加でしたが、全国の様々な高等学校でのPTAの取組みの事例発表を聞くことができ、親として、又、PTAとしてのあるべき姿を改めて考えさせられました。

県内からの参加は、各学校によりかなりの温度差はあると思いますが、是非PTAの一環として、多くの関係者の参加をお勧め致します。

(調査広報委員 重白将彦)

～広島土砂災害義援金についての お礼と御報告～

広島土砂災害被災生徒・児童支援の義援金は、10月24日をもって締め切らせていただきました。

山口県公立高等学校PTA連合会、岡山県高等学校PTA連合会、岡山市内高等学校PTA連合会保導部の県外の団体や、県内各校より多くの義援金をお送りいただき、ありがとうございました。

総額 3,856,999円が寄せられました。

11月5日に開催しました、臨時幹事会で御報告し、該当校を通して被災家族へ渡していただくようお願いして参りましたので御報告申し上げます。

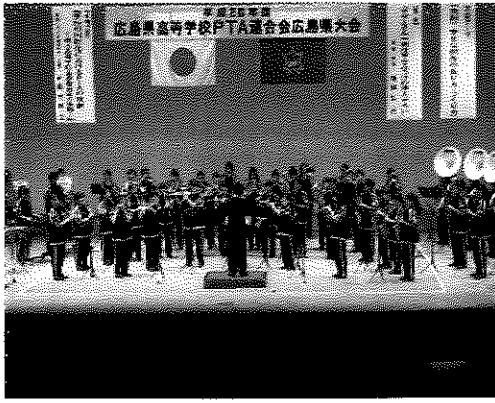
皆様の御協力と御支援に心から感謝申し上げます。

広島県高等学校PTA連合会
会長 中津久美子

平成二十六年 広島県高等学校PTA連合会 広島県大会

とき 平成二十六年十月二十五日 ところ 安佐南区民文化センター

平成二十六年度広島県高等学校PTA連合会広島県大会は、十月二十八日(日)、広島市安佐南区民文化センターホールにおいて、「共創」～幸せな関係の在り方・つくり方をテーマに、全県八地区及び、アトラクション参加生徒やスタッフを含め八百七十八名という多数の参加申し込みをいただき開催されました。



今大会の開催地である安佐南区には、去る八月二十日未明の記録的な大雨による大規模土砂災害により、多数の尊い生

命が失われ、数多くの住宅・建物が甚大な被害を受けた地域があります。

亡くなられた方々に衷心よりお悔やみ申し上げるとともに、被害を受けられた皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。

身近な地域で予想もしていなかった自然災害により、当たり前であったことが突然当たり前でなくなり、日常生活が大きく変わってしまいました。

このことが図らずも今大会のテーマである「共創」について考えさせられるきっかけになりました。

例えば避難生活や復旧作業など困難な状況では、異なる価値観を持ちながらもともに理解しあい支えあうことが不可欠ではないでしょうか。

子供と保護者・学校の間だけでなく、地域の住民の方々とも世代を超えてお互いを尊重し幸せを願うこと、人と人の関係づくりの大切さに改めて気付くことができました、とても有意義な大会でした。

当日、会場に到着すると、スタッフ皆様の元気な声での御挨拶のお出迎えや、入場の御案内や受け付けでは明るい笑顔での御対応をいただきました。

災害から約二ヶ月で大会開催にこぎつ

けるのは並大抵のことではなかったであろうと、その御苦労には頭の下がる思いがするとともに、こちらの方が元気をいただいたような気持ちになりました。

開会に先立ち、参加校の生徒によるアトラクションがありました。

まずは、広島県立祇園北高等学校・放送部によるプロジェクトシンマツピング。安佐北区の自然をテーマに四季の風景や移ろいを、細やかな描写と鮮やかな色彩で表現した映像が舞台スクリーンに投影されました。

今にも目の前に出てきそうな臨場感ある映像とその迫力を盛り上げるBGMが、製作期間二ヶ月で仕上げられたとは驚くばかりでした。

続いては、広島市立沼田高等学校・吹奏楽部による演奏。まずはユーロビート(ディスコ風)にアレンジされたディズニードソングのメドレーで盛り上がった始まりから、次に落ち着いたスタンダードナンバーの演奏をじっくりと聞いて、ラストはAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」のマーチング。舞台の都合で動きは見られませんが、最後にはチアグループも登場して、とても楽しい

演奏を締めくくっていたいただきました。

「アンコールはありませんよ。」という顧問の先生のお言葉がなかったら、きっとアンコールを求める拍手が鳴り続けたことでしょう。

開会行事では、佐々木道宏広島県大会実行委員長の開会のことばをはじめに、参加者全員で土砂災害犠牲者の方々への黙とうを捧げました。

続いて、中津久美子県高P連会長の主催者挨拶、そして、下崎邦明広島県教育委員会教育長及び、広島市長、広島県高等学校校長協会の御来賓のみなさまから御祝辞をいただきました。

その冒頭では、みなさまが哀悼の意を表されるとともに、お見舞いのお言葉をいただきました。

続いては、広島市立舟入高等学校の片岡克吉PTA会長から「学校の国際化におけるPTAの役割」をテーマにした事例発表「委員会活動」をテーマにした事例発表がおこなわれました。

舟入高等学校には普通科国際コミュニケーションコースが設置されており、『平和』と『国際』を二本柱に、平和都市ヒロシマの『舟入から世界へ』を掲げておられます。

三年間で長期・短期留学生を二百人も受け入れている現状を聞くと、PTAには負担が重いのではないかと想像しました。

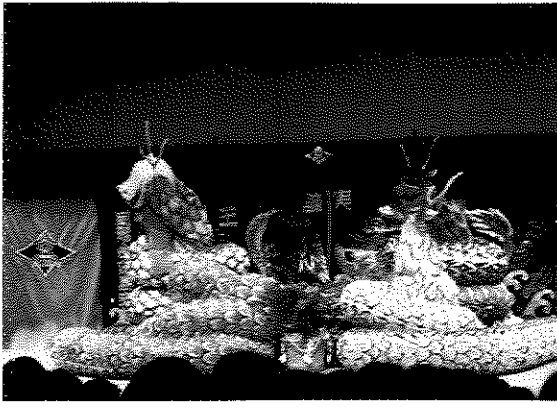
ところが発表を聞いてみると、PTA主催で背景を知る・相手を知る・自分た

ちの状況を知りテーマを設定して、保護者の言葉でヒロシマを発信する異文化交流・体験を楽しまれている雰囲気が出てきました。

そのためには、保護者の方々の理解を得て開かれたPTAであることが大事だということでした。

グローバル化がすすむ時代である今、国際化する学校とともにPTAの役割としてもさらなる国際化への対応を目指している力強さがとても印象的な発表でした。

次に高校生のアトラクション第二部として、広島県立加計高等学校芸北分校・神楽部による演目「八岐大蛇」。



部活が終了して活動する第二部活として郷土の伝統芸能継承に取り組むということに驚き、その真剣さが伝わってくる舞台でした。

『受験のため六岐です』との紹介で笑いを誘って始まりましたが、舞台へ出てくる所作の凛々しさに目をみはり、舞台を所狭しと舞う大蛇の若々しい躍動感に目は釘付けになりました。

八岐大蛇がそろったらどんな迫力なのか想像もつかない、機会があれば是非とも観てみたいという会場全体の思いが盛大な拍手になり、なかなか鳴りやみませんでした。

今大会の講演は講師に声優／俳優の増岡弘氏をお迎えし、演題は「サザエさん一家は幸せみつけの達人ぞろい」で行われました。

声優として「サザエさん」のマスオさん役、「それいけーアンパンマン」のジヤムおじさん役といえば、多くの人にお馴染みでしょう。

毎週日曜日に放送の「サザエさん」は、家族の幸せを親子・兄弟・学校・御近所など様々な関係のなかみつけることができる、家族揃って安心して楽しめる番組です。

その収録現場でのキーワードは『言葉を大切にしよう』だそうです。それは『言葉は相手に対するプレゼント』として捉えることです。

親は子供を育てるときに、褒めたり叱ったり親の思いや希望を伝えたりします

全校生徒が加入している運動部の第一

が、一度口から出た言葉は元に戻すことができません。

だからこそ言葉を選ぶだけでなく、子供の心を大切にしている言葉の使い方と親の気持ち伝える温度を持った言葉の伝え方ができるような心掛けて、家族の幸せをみつけていきましょうと語り掛けられました。



また先生御夫婦の例え話を挙げられて人生・家族・健康・心など幸せの基本には「愛」があると言われました。

愛は今までであったからではなく、目に見えない心を伝える言葉を使って会話をし、愛を続ける努力をするからこそ愛である、ユーモアを込めてお話をいただきました。『愛』についての参加者への問い掛けには、会場全体が照れ笑いや苦笑

いなどで溢れ、和やかな雰囲気です。講演がとても短く感じられました。

きつと多くの参加者が当日の「サザエさん」の放送を視聴し、幸せをみつけるきっかけにしたことでしょう。

今大会では最後に、広島県立安古市高等学校の木ノ内淳子PTA副会長から、「八・二〇 広島土砂災害」の学び・伝え・守り・つながる大切さの特別報告がありました。

いっどこで起こるか分からないのに、今までどこか他人事としてとらえていた自然災害について、家族・地域・PTAで共に災害に備えたネットワークと体制を考え創ることで、その意識を変えていく大切さを報告していただきました。

紹介された「広島県防災Web」の『もしもの時に』は、日頃の心構えや災害に備えた準備のページにはすぐに実行できることが多く載っていて、意識を変える第一歩になると思いました。

閉会行事では、次回開催予定について呉地区高等学校PTA連合会の曾根誠治会長から力強いお招きの言葉と御挨拶があり、閉会のことを広島県高等学校PTA連合会の長谷川知子広島県大会副実行委員長からいただき、大会全日程が無事に終了しました。

今大会の主管である広島北地区高等学校PTA連合会の皆様をはじめ、開催に御尽力いただいたすべての皆様から感謝を申し上げます。

(調査広報委員 横田 裕)



優秀賞
熊野高等学校 2年
鹿島なつみ

全県一斉あいさつ運動ポスター 入賞作品の紹介

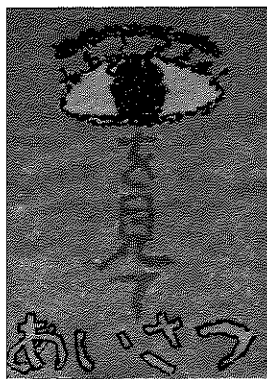
広島県高等学校PTA連合会の健全育成委員会の事業の一環として、平成二十三年度より開始しました、「全県一斉あいさつ運動」は今年で4回目を迎えました。

毎年十一月一日を実施日としておりましたが、今年度は休日となるため、十一月四日に行っていました。ようにお願ひし、当日は各校、各地であいさつ運動を実施いただきました。

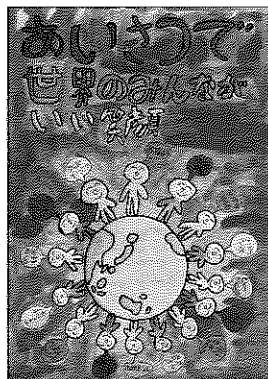
本年もポスターを募集し、十一月四日のあいさつ運動の日の前に各校へ配布いたしました。

応募総数八十三通の作品の中から、広島県立熊野高等学校 鹿島なつみさんの作品が選ばれポスターとなりました。

たくさんの御応募をいただきありがとうございます。また、その他受賞されました作品を御紹介します。



会長賞
黒瀬特別支援学校 高等部 2年
銭廣 諒



佳作
黒瀬特別支援学校 1年
城山 真琴



佳作
安芸府中高校 2年
田向 七菜



佳作
広島国泰寺高校 1年
吉本 愛梨

平成27年度 県高P連行事予定

- 平成27年1月24日(土) 平成26年度第2回単P会長研修会(広島YMCA国際文化センター)
- 平成27年3月中旬 平成26年度第2回常任委員会(広島YMCA国際文化センター)
- 平成27年6月9日(火) 平成27年度県高P連定例総会(県民文化センター)
- 平成27年6月下旬 平成27年第1回常任委員会(広島YMCA国際文化センター)
- 平成27年7月10日(金) 第57回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会岡山大会
(岡山市 岡山市民会館)
- 平成27年8月上旬 平成27年度第1回単P会長研修会(広島YMCA国際文化センター)
- 平成27年8月20日(木)~21日(金) 第65回全国高等学校PTA連合会大会岩手大会
(盛岡市 岩手産業文化センター外)
- 平成27年9月19日(土) 広島県高等学校PTA連合会進学説明会(広島県民文化センター)
- 平成27年10月25日(日) 広島県大会(担当 呉地区高P連)
- 平成27年11月上旬 全県一斉あいさつ運動

広島県高等学校PTA連合会

高校生総合保障制度

この制度の特徴

〈高校生総合保障制度は、こども総合保険のペットネームです。〉

1. 団体割引25%適用・損害率による割引10%適用
2. 病気・けが・賠償事故・携行品等を補償
3. 国内外を問わず24時間の傷害・病気等を補償
○携行品（学校管理下動産担保特約）の補償は学校管理下中のみです。
○夜間・休日も24時間事故の受付をしております。
4. 「スクールメディカルデスク24」で24時間無料電話健康相談サービス付き
○「スクールメディカル・デスク24」は、東京海上日動メディカルサービス㈱との連携により、同社からご提供いたします。
※詳細はパンフレットをご確認ください。
※補償期間(保険期間)は1年となります。(平成26年4月25日午後4時より平成27年4月25日午後4時まで1年間)
※中途加入は補償期間が異なります。詳しくは取扱代理店までお問合せください。

〈保険金額と掛金(保険料)〉

補償内容	W2タイプ	W1タイプ	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	
賠償責任 (記録情報限度額 500万円)	1事故 2億円 限度	1事故 1億円 限度	1事故 1億円 限度	1事故 5,000万円 限度	1事故 3,000万円 限度	
病気入院日額 (1日あたり)	4,000円	3,500円	—	—	—	
傷害	入院日額 (1日あたり)	4,500円	4,000円	4,000円	3,000円	2,500円
	通院日額 (1日あたり)	3,500円 (3,200円)	2,400円 (2,100円)	2,300円 (2,100円)	1,300円 (1,200円)	1,000円 (800円)
手術	入院日額の10倍(入院中の手術)または5倍(入院中以外の手術)となります。 傷の処置等のお支払の対象外の手術があります。					
死亡・後遺障害	205.8万円 (164.0万円)	169.4万円 (150.6万円)	157.7万円 (133.5万円)	144.8万円 (118.9万円)	101.9万円 (117.6万円)	
被害事故補償	1事故 1,000万円 限度	1事故 1,000万円 限度	1事故 1,000万円 限度	—	—	
育英費用	100万円	100万円	100万円	50万円	—	
携行品損害補償 (学校管理下動産担保特約) 〈免責金額(自己負担額)〉	1年間で10万円 限度 〈1事故1,000円〉	1年間で10万円 限度 〈1事故1,000円〉	1年間で10万円 限度 〈1事故1,000円〉	1年間で10万円 限度 〈1事故1,000円〉	—	
年間保険料	14,650円	11,650円	9,650円	6,650円	4,650円	
制度維持費	350円	350円	350円	350円	350円	
制度掛金 (1年分)	15,000円	12,000円	10,000円	7,000円	5,000円	

○携行品の損害保険金は1年間で10万円が限度(注)となります。

(注)携行品の損害保険金のお支払額の合計が保険金額(10万円)と同額となった場合は、この携行品の補償は損害発生時に終了します。

※こども総合保険については被保険者(保険の対象となる方)ご本人の人数により保険金額が一部変更となることがあります。(上記保険金額は被保険者(保険の対象となる方)ご本人の人数が、5,000名以上10,000名未満の場合です。3,000名以上5,000名未満の場合は()内の保険金額となります。) ※制度掛金は制度維持費350円を含んでおります。

※上記保険料は職種別Aの方を対象としたものです。お子様(被保険者-保険の対象となる方)が継続的にアルバイトに従事している等で、職種別Aに該当しない場合は、保険料が異なりますので、取扱代理店にお問い合わせください。

※病気入院(入院医療保険金)について：新規ご加入時の支払責任の開始日より前に被った病気については保険金お支払いの対象となりません。(ただし、新規ご加入時の支払責任の開始日からその日を含めて1年を経過した後に生じた保険金支払事由については、保険金お支払いの対象となります。)

このご案内はこども総合保険の内容についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットをご覧ください。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、取扱代理店までお問い合わせください。

〈お問合せ先〉取扱代理店 ㈱東海日動パートナーズ中国四国 TEL:0120-018-217 平成26年8月作成(14-T-04182)

(引受幹事保険会社)



TOKIO MARINE
NICHIDO

東京海上日動

(担当支社) 広島支店 広島中央支社
広島市中区八丁堀3-33 広島ビジネスタワー
TEL 082-511-9194

パンフレット・重要事項説明書は上記お問合せ先にご請求下さい。

(共同引受保険会社)



AIU損害保険(株)
広島支店

広島市中区基町11-10
ヒューリック広島紙屋町ビル2階
TEL 082-222-4351

この保険契約は、以下の保険会社による共同保険契約であり、東京海上日動火災保険が他の引受保険会社の代理・代行を行います。各引受保険会社は、契約締結時に決定する引受割合に応じて、連帯することなく単独別個に保険契約上の責任を負います。なお、引受割合につきましては、団体窓口にご確認ください。

〈引受保険会社〉 東京海上日動火災保険(幹事保険会社) AIU損害保険株式会社